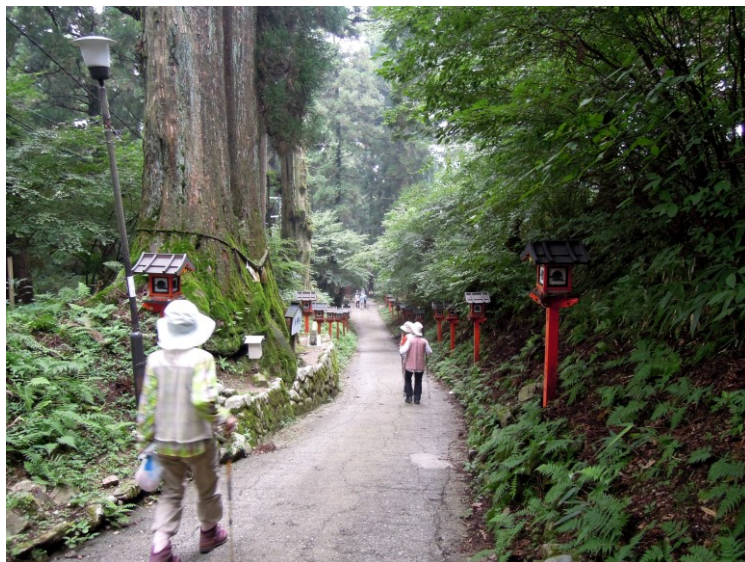


## 高校同期生の登山旅行 今年は奈良で(続)

### 下 金剛山頂付近で

9月19日 二上山に15名全員で登って、大阪側に降りた高校同期生一同は千早赤阪村の郷土資料館に立寄った。この村は、「平成の大合併」が声高に叫ばれた中で、「大阪府下唯一の村」を貫いている自治体だが、ご当地自慢はなんと言っても楠正成なのだ。資料館自体が楠公誕生地(伝)の横に建てられており、展示物のメインも楠公であり、紹介されている歴史遺跡も楠公ゆかりの地が多いのだ。



### 昔懐かしい「青葉茂れる桜井の——」

一行の中には感慨深く、熱心に見学している人も居た。私たちの年代は太平洋戦争の直後に義務教育を受けた。戦前の軍国主義教育への反省から、教育の内容は大転換を迫られたのだろうが、本屋が極めて少なかった

**フシグロセンノウ** この時代に、貸本屋で手にする読み物や日本歴史に関する書籍は皇国史観そのものの内容が多かったように思う。南北朝時代の記述はその典型で、人物評価でも、天皇・皇室に対する態度で正義か不正義かが分かれていた。従って楠正成などは児島高德や「青葉茂れる桜井の——」と唄い出す唱歌「桜井の別れ」と共に正義の、そして悲運のヒーローとして、記憶に強くインプットされているらしい。実際この日夕食の宴では「桜井の別れ」が合唱されたのだ。

ちなみに、「桜井の駅」を奈良県桜井市にあたると思っていた人に「違うよ、あれは兵庫の方の地名だ」と言ったが、正確には当時の西国街道宿駅のひとつで、現在は大阪府三島郡島本町桜井にあたるとのこと。

### 金剛山にのぼる

### 右 レイジンソウ

千早赤阪村の千早から金剛山頂へとロープウェイでのぼる。山頂駅から宿舎の香楠荘へは「しゃくなげの路」を歩く。ここは植物が保護ないし植えられている「ちはや園地」の通路。アキチョウジ、フシグロセンノウ、レイジンソウ、ツリフネソウ、イヌシヨウマ、カリガネソウなどが咲いていた。





チェックイン後、全員で山頂を目指した。香楠荘から「星と自然のミュージアム」前を通って、ダイヤモンドトレール（二上山麓を起点に葛城・金剛山系と和泉山系のピークを結ぶ長距離ハイキングコース）に出て、北に向かった。山頂近くの杉林の下にはミカエリソウが大きな群落をつくっ

**上ツルニンジン** て咲き誇っており、沿道ではツルニンジン、アキギリが花を見せてくれた。山頂でそれぞれなり（展望を楽しんだり、朱印帳に揮毫してもらったり）の時間を過ごし、遊歩道を伝って香楠荘に戻った。

### 二晩続けての鴨鍋

この日はこの旅行の最後の晩、楽しく賑やかだと思っていたのに、とんだ事に。昨夜に続き最後の晩餐も鴨鍋なのだ。これは宿を予約した私のミス。料理に無頓着とは言え、二晩続けて同じ料理は全くいただけない。鴨肉を食べられない人達には本当に申し訳ないことをした。

### 同窓生登山の登山リーダー役を辞退

この最後の晩餐で、私は「計画立案・登山リーダー」の役を今回限りで辞退する旨を申し出た。理由は加齢に伴う体力低下、中でも故障を抱える両膝の変形進行。そして多忙、とした。正直両膝の悪化は、責任を果たせる状態ではなくなりつつあり、古希を超えて70歳代に入ったことをいい区切りとして、十数年続けてきた役を降ろさせてもらう事にした。

改めて同窓生の皆さんに感謝し、中でも縁の下の力もちとして事務局を献身的に果たしてくれた田崎御夫妻に心からお礼を言いたい。高齢者登山にも拘わらず、幾つかのハプニングはあったが、重大事故なしにこれたこと、皆さんの協力、たゆまぬ鍛錬に敬意を表したい。長崎西高12回卒のみなさん、今後ともよろしくお願いします。

### 最終日の昼食は五條市の古民家・藤岡邸で

9月20日、徒歩で五條市に下る部隊と、ロープウェイ～バスを利用する人達とに別れ、徒歩組は伏見峠から五條市小和（おわ）に向かった。杉・桧林の中の急坂を順調に下って、水越トンネルを迂回してきたバス組と予定の時間に合流。

この日の昼食は金剛山南麓の古民家・藤岡家住宅で。屋久杉の柱や大板をふんだんに使った座敷で賑やかな昼食会を済ませて、橿原神宮前駅で解散した。次の再会は何時になるだろうか。

←奈良県五條市藤岡邸

以上159号



上ミカエリソウ

下カリガネソウ

